

## 商 業

### 1 全般的事項に関する質疑応答

問1 教科「商業」における科目構成はどのようになっているか。

商業の科目は、従前と同様に20科目で構成され、「分野共通の科目」と「各分野の科目」で構成されている。

分野構成

分野	各分野の科目	分野共通の科目	
		基礎的科目	総合的科目
マーケティング分野	マーケティング 商品開発と流通 観光ビジネス	ビジネス基礎 ビジネス・コミュニケーション	課題研究 総合実践
マネジメント分野	ビジネス・マネジメント グローバル経済 ビジネス法規		
会計分野	簿記 財務会計Ⅰ 財務会計Ⅱ 原価計算 管理会計		
ビジネス情報分野	情報処理 ソフトウェア活用 プログラミング ネットワーク活用 ネットワーク管理		

分野共通の科目は2つに分けられ、を基礎的科目は「ビジネス基礎」「ビジネス・コミュニケーション」、総合的科目は「課題研究」「総合実践」とした。

また、各分野の科目は4つの分野に分けられ、マーケティング分野は「マーケティング」「商品開発と流通」「観光ビジネス」、マネジメント分野は「ビジネス・マネジメント」「グローバル経済」「ビジネス法規」、会計分野は「簿記」「財務会計Ⅰ」「財務会計Ⅱ」「原価計算」「管理会計」、ビジネス情報分野は「情報処理」「ソフトウェア活用」「プログラミング」「ネットワーク活用」「ネットワーク管理」を位置付けた。

各分野の科目においては、教科の目標に示す資質・能力を踏まえ、マーケティング分野では、効果的にマーケティングを展開する力及び顧客を理解し、マーケティングの考え方を踏まえてビジネスを展開する力、マネジメント分野では、経済社会の動向や法規などを踏まえて経営資源を最適に組み合わせてビジネスを展開する力、会計分野では、企業会計に関する法規と基準に基づき適正な会計処理を行い、利害関係者（ステークホルダー）に会計情報を提供する力及び会計情報をビジネスに効果的に活用する力、ビジネス情報分野では、適切な情報を提供する力及び情報や情報技術をビジネスに効果的に活用する力を育成することが示された。

問2 内容の取扱いに当たって、どのようなことに配慮したらよいか。

各学校において、商業科に属する各科目の内容を取り扱う際には、次の事項に配慮することが大切である。

(1) 言語活動の充実

ビジネスに関する課題について、協働して分析、考察、討論を行い、解決策を考案し地域や産業界等に提案するなど言語活動の充実を図る必要がある。

言語に関する様々な能力は、学習の基盤となるものであるとともに、思考力・判断力・表現力等はもとより知識及び技術、学びに向かう力、人間性等といった資質・能力を育成する上で重要となるものである。

また、ビジネスに関する課題について、経済や市場の動向、ビジネスに関する理論など科学的な根拠に基づいて協働して分析、考察、討論を行い、解決策を考案し、地域や産業界等に提案するなど言語活動の充実を図ることが大切である。

(2) コンピュータや情報通信ネットワークなどの活用

コンピュータや情報通信ネットワークなどについては、学習の効果を高めるよう工夫する必要がある。

情報モラルを身に付け、調査や研究などにおいては、コンピュータや情報通信ネットワークなどの積極的な活用を図り、情報の収集・分析、他の学校や地域との情報の交換、学習成果の発表を行うなど、学習の効果を高めるよう工夫をすることが大切である。

## 2 商業（各科目）に関する質疑応答

問1 「ビジネス基礎」のねらいと指導上の留意点はどのようなことか。

科目のねらいは、ビジネスを適切に展開して企業の社会的責任を果たす視点を持ち、ビジネスの場面を想定し、身近な地域のビジネスの動向を捉える実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、地域産業をはじめ経済社会の健全で持続的な発展のため、ビジネスの展開について、組織の一員としての役割を果たすことができるようにすることである。

指導上の留意点としては、地域におけるビジネスの推進の必要性を踏まえた上で、取り入れられた指導項目「(6) 身近な地域のビジネス ア 身近な地域の課題」では、ビジネスに関する国内の身近な地域の抱える課題について扱い、地域の発展に及ぼす影響と関連付けて分析し、考察する学習活動を取り入れることが大切である。

また、同様に「イ 身近な地域のビジネスの動向」では、国内の身近な地域のビジネスの動向について扱い、ビジネスの動向を捉えて、地域の特色を生かしたビジネスの振興策を考案し、発表する学習活動を取り入れることが大切である。

問2 「観光ビジネス」のねらいと指導上の留意点はどのようなことか。

科目のねらいは、ビジネスを適切に展開して企業の社会的責任を果たす視点を持ち、ビジネスの場面を想定し、観光資源の効果的な活用、マーケティング及び国内旅行と訪日観光の振興策の考案に取り組む実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、観光ビジネスの展開について、組織の一員としての役割を果たすことができるようにすることである。

指導上の留意点としては、国内に在住する観光客及び海外からの観光客を対象とした観光ビジネスを展開するために必要な資質・能力を育成する視点から新たに取り入れられた指導項目「(3) 観光ビジネスとマーケティング イ 観光ビジネスにおけるマーケティングの特徴」では、観光情報の発信、観光キャンペーンの実施、対象となる顧客や顧客の居住地域などを踏まえたプロモーションなど、実際の観光ビジネスにおけるマーケティングの特徴について扱い、具体的な事例を用いて分析し、考察する学習活動を取り入れることが大切である。

また、同様に「ウ 顧客の理解」では、地域や年代による味覚や嗜好の違い、ライフスタイルによる旅行目的の傾向など観光ビジネスにおける顧客の特性や国内の身近な地域をはじめ日本を訪れる観光客の多い国などに関しての文化と習慣について扱い、日本との違いを考察する学習活動を取り入れることが大切である。

問3 「ビジネス・マネジメント」のねらいと指導上の留意点はどのようなことか。

科目のねらいは、ビジネスを適切に展開して企業の社会的責任を果たす視点を持ち、ビジネスの場面を想定し、経営資源のマネジメントを行う方策や新たなビジネスの考案に取り組む実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、ビジネスにおけるマネジメントについて、組織の一員としての役割を果たすことができるようにすることである。

指導上の留意点としては、人的資源、物的資源など経営資源のマネジメントに関して取り入れられた指導項目「(3) 経営資源のマネジメント ア 経営資源の種類と最適化」では、経営資源として人的資源、物的資源、財務的資源、情動的資源などがあること及び、経営資源を最適に組み合わせて活用することの重要性について扱うことが大切である。

また、同様に「オ 情動的資源のマネジメント」では、企業を取り巻く外部環境に関する情報、顧客情報、知的財産等の技術力、信用など情動的資源の重要性とその管理の方法及び情動的資源をマネジメントする上での課題について扱うことが大切である。

問4 「財務会計Ⅰ」のねらいと指導上の留意点はどのようなことか。

科目のねらいは、会計処理を適正に行って企業の社会的責任を果たす視点を持ち、会計処理を行う場面を想定し、会計処理や財務諸表の作成と分析に取り組む実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、適切な会計情報の提供と効果的な活用について、組織の一員としての役割を果たすことができるようにすることである。

指導上の留意点としては、株式会社の実務で必要とされる会計処理の内容を踏まえた上で、取り入れられた指導項目「(4) 財務諸表分析の基礎 ア 財務諸表分析の意義」では、財務諸表分析の意義、種類及び企業の財務諸表を入手する方法について扱うことが大切である。

また、同様に「イ 財務諸表分析の方法」では、財務指標の概念及び収益性、成長性、安全性の面から企業の実態を分析する方法について扱い、財務指標の具体的な例を用いて、同一企業における期間比較や同業他社比較など財務諸表を分析する学習活動を取り入れたり、連結財務諸表の目的と種類及び企業集団の実態を分析する上での連結財務諸表の有用性について触れることが大切である。

問5 「情報処理」のねらいと指導上の留意点はどのようなことか。

科目のねらいは、ビジネスを適切に展開して企業の社会的責任を果たす視点を持ち、ビジネスの場面を想定し、情報の集計と分析、ビジネス文書の作成、プレゼンテーションに取り組む実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、情報を適切に扱うことについて、組織の一員としての役割を果たすことができるようにすることである。

指導上の留意点としては、情報を適切に表現し、活用できるようにする視点から取り入れられた指導項目「(1) 企業活動と情報処理 イ コミュニケーションと情報デザイン」では、情報を分かりやすく伝達するために必要な情報デザインの重要性、文字、図形、音声などの特性、色彩、光など情報デザインの要素、色彩が心理や感情に及ぼす影響、伝えたい意図を的確に表現するための要素の構成と配置及び図解表現の効果と方法について扱うことが大切である。

また、「(3) 情報の集計と分析 ウ 問題の発見と解決の方法」については、事象をモデル化し、シミュレーションを行う基礎的な技法及びアルゴリズムを考案し、プログラムとして表現する基礎的な技法を用いた問題の発見と解決について、ビジネスを想定した題材を用いて扱う。さらに、ロジックツリー、MECE、デシジョンテーブル、ガントチャート、SWOT分析、PPM分析などを活用した情報の整理及びPDCAサイクルによる企業活動の改善について扱うことが大切である。

### 3 思考力・判断力・表現力等を育む学習の取組について

教科「商業」においては、商業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うこと等を通して、ビジネスを通じ、地域産業をはじめ経済社会の健全で持続的な発展を担う職業人として必要な資質・能力を育成することが求められている。

ここでは、商業の見方・考え方を働かせ、観光ビジネスの動向・課題を捉える学習活動について多面的・多角的に分析し、考察や討論を行うとともに、観光ビジネスに関する具体的な課題を設定し、科学的な根拠に基づいて観光の振興策を考案して提案する学習活動の事例として、北海道釧路商業高等学校の「課題研究」の取組を示す。

#### ア 事例1 観光に関する地域課題の分析

##### 1 科目名

「課題研究」

##### 2 授業のねらい

観光市場における地域の現状を調査・分析し、観光目的に対応したまちづくりについて考察する。

##### 3 主な学習内容

- (1) 地域の振興局が公開している観光入込客数の情報から「月別」「宿泊・日帰り」「外国人の割合」等を調査・分析し、ワークシートにまとめる。
- (2) 市内の観光関連サイト等で公開している情報から、身近な地域に存在する観光資源を調査・分析し、ワークシートにまとめる。
- (3) (1) と (2) の分析結果を踏まえ、グループで意見交換を行い、現在の観光資源に対する付加価値等について考察する。

##### 4 学習活動の様子

生徒に科学的な根拠に基づくデータから、有益な情報を見出したり主張の根拠を示させたりすることで、より主体的に学習活動に取り組むことが期待できる。

平成30年度の釧路管内の観光客について

平成30年度の観光客数は、前年度比9.6%増の496万9,600人（上旬・496万9,600人、下旬・496万9,600人）となり、前年度比9.6%増の496万9,600人と前年同期に比べて過去最高となった。

このうち、海外客は前年度比3.0%減の25万8,600人、国内客は前年度比1.2%増の569万1,000人と、国内客については過去最高となった。

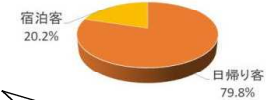
区分	平成30年度		前年度		平成30年度		前年度	
	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比
入込総数	4,969,600	100.0%	4,533,100	99.3%	3,118,500	100.0%	1,085,100	99.8%

##### 平成30年度釧路管内の観光客について

月別観光入込客



日帰り客・宿泊客内訳



釧路総合振興局「観光入込客数・訪日外国人宿泊客数」  
(<http://www.kushiro.pref.hokkaido.lg.jp/>)



商業の見方・考え方を働かせ、発信されている観光情報を調査させることにより、実際の観光ビジネスにおけるマーケティングの特徴を理解させることが期待できる。

釧路市観光課「釧路・阿寒湖観光公式サイト」  
(<https://ja.kushiro-lakeakan.com/>)

調査・分析結果を基にグループで協議を行うことで、自らの考え方を深めさせることが期待できる。

ICT機器を用いて、異なる事象の関連性を見出すことで、生徒の理解を深めることが期待できる。

##### 釧路の観光客及び観光資源のまとめ

###### 1 観光客が多い月や季節を調べよう

自分の考え  
多い月：8月 季節：夏  
理由：釧路の夏は涼しく過ごしやすい。冬にはイベントが少なく認知度が低い・・・

ほかの人の考え  
夏には・・・

###### 2 自分が知らなかった観光資源は？

自分の考え  
阿寒湖でヒメマスが特産品なのは知らなかった。食べたことが・・・

ほかの人の考え

##### 観光振興策の提案

1 宿泊観光客に対して  
自分の考え  
宿泊施設の増加。  
理由：ビジネスホテルが多いため

ほかの人の考え  
夜景など夜の観光地をPRする。

##### 5 成果

- ・ ICTを活用して表やグラフにまとめ、情報を視覚的に分かりやすくするなど情報活用能力を身に付け、客観的な分析を行うことができた。
- ・ 地域の観光の動向や観光資源を学び、グループワークを通して互いの情報を共有しながら、新たな価値を持つ観光資源を提案することができた。

# イ 事例2 地域振興を目的にした新たな観光ビジネスの提案

## 1 科目名

「課題研究」

## 2 授業のねらい

地域の観光市場に関する現状分析の結果を踏まえ、グループで振興策を考案し、地域活性化に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。

## 3 主な学習活動

- (1) 調査した結果を基に、KJ法・SWOT分析を行い、地域の強み等を理解する。
- (2) (1)の結果を基に、観光資源の発掘や新たな観光ビジネス等の観光による振興策を考察する。
- (3) 考察した振興策について発表・協議を行い、改善・修正を加えて地域に提案する。

## 4 学習活動の様子



KJ法により、調査した情報を効率良く整理させる。

### SWOT分析

1 創路活性化に向けた観光振興策の提案

<b>強み (Strength)</b> 創路の観光資源の豊富さ、自然環境の優美さ、歴史文化の継承性、地域住民の協働意識の高さ、交通アクセスの改善による観光客の増加の期待。	<b>弱み (Weakness)</b> 創路活性化の資金不足、観光資源の発掘不足、観光客の誘致手段の不足、地域住民の観光意識の低さ、交通アクセスの不便さ。
<b>機会 (Opportunity)</b> 観光客の増加による地域活性化の促進、観光資源の発掘による新たな観光資源の発見、観光客の誘致手段の改善による観光客の増加の期待。	<b>脅威 (Threat)</b> 創路の地域活性化を脅かす外部要因、観光客の減少による地域活性化の促進の阻害、観光資源の発掘不足による新たな観光資源の発見の阻害、観光客の誘致手段の不足による観光客の増加の期待の阻害。

KJ法の結果を踏まえ、SWOT分析により新たな問題解決策の発見や、革新的なアイデアの創作を通して理解を深めることが期待できる。

## KBT 日程表

〇〇〇〇 北海道旅行

ご旅行先 北海道内  
参加人数 2~4名様  
旅行期間 2019年 2月28日 1日間

観光庁長官登録旅行業 000号  
国ビとらべる株式会社  
〒000-0000  
TEL: :  
FAX: :  
支店長 :  
取扱管理者 :  
担当者 :  
作成日 :2019年11月27日

### ツアータイトル:冬の北海道を体験! 道東丸ごとアクティブツアー

<旅のプラン> Peachで関西から釧路に来た旅行者が、2泊3日で道東をめぐり、釧路から帰る旅行プランを考える。

SWOT分析を基に、グループごとに新たな観光資源や付加価値を追加した観光資源を紹介する地域活性化に向けた観光プランを作成する。

日程	時間	内容					
1 2019年 2月28日 (木)	12:40	12:45	12:50	13:50	====釧路駅====和商市場====		
	13:55	14:14	16:30	16:40	17:30	17:30	.....釧路駅+++++++知床斜里駅====ウトロ温泉バスターミナル..
	18:00	20:00	20:20	.....KIKI知床ナチュラルリゾート.....ウトロ温泉バスターミナル(星空ナイトツアー).....KIKI知床ナチュラルリゾート			
2 2019年 3月1日 (金)	9:40	10:00	10:50	KIKI知床ナチュラルリゾート.....ウトロ温泉バスターミナル=====			
	10:50	11:11	13:33	14:50	16:45	16:45	====知床斜里駅+++++++釧路駅====阿寒湖温泉(バス停留所)...
	17:00	17:30	17:35	19:30	19:35	.....あかん遊久の里鶴雅.....阿寒湖体験.....あかん遊久の里鶴雅	
3 2019年 3月2日 (土)	10:00	10:15	10:20	あかん遊久の里鶴雅.....阿寒湖温泉(バス停留所)=====			
	11:25	12:30	15:00	====釧路空港====>>>関西空港			

商業の見方・考え方を働かせ、具体的に観光プランを作成する。



商業の見方・考え方を働かせ、具体的に観光プランを作成する。

### 〇旅の経費(見込み)

飛行機代(往復)	¥20,000
体験	¥6,000
鶴雅ホテル代	¥20,000
KIKI知床ホテル代	¥10,000
飲食費	¥4,000
JR代	¥8,000
バス代	¥2,700
<b>合計</b>	<b>¥70,700</b>



## 5 成果

・地域の観光資源を把握するとともに、情報活用能力を生かし、他者との協働を通して観光資源の効果的な活用および観光の振興策を提案し、発表することができた。